



昭和薬科大学創立90周年記念式典

町田に根をおろして30年

昭和薬科大学（元木和幸理事長）はこのほど創立90周年を迎え、10月17日に記念式典を開催した。記念式典のあとには、ノーベル生理学・医学賞受賞の大村智氏（北里大学特別栄誉教授）による特別講演会が行われた。

記念式典では国歌ならびに学歌の演奏、理事長式辞、学長式辞、来賓祝辞や祝電披露などが行われた。

▼理事長式辞（元木和幸理事長）

本学は、昭和5年に東京都目黒区に自ら設立した昭和女子薬学専門学校を前身としている。不幸にも第二次世界大戦の戦災により校舎の全てを消失したが、世田谷に新たな校舎を建設し、昭和24年には、教育制度改革に伴い、昭和女子薬科大学として新制大学への昇格を果たした（昭和25年に昭和薬科大学に改称）。その後、昭和40年に生物薬学科、昭和44年には大学院薬学研究科を増設した。また、長野県茅野市の白樺湖畔に合宿教育施設の諏訪校舎を設置（昭和40年）するなど大学としての飛躍期を迎えた。

このように大学が順調に発展する一方で、世田谷校舎が老朽化し手狭となったことから、創立60周年を迎えた平成22年に地域連携センターを設置した。これにより、組織的に地域貢献する仕組みが整った。今後もさらなる飛躍と発展を目指していく。

▼来賓祝辞（町田市・石阪丈一市長）  
昭和薬科大学の創立90周年ならびに町田市にキャンパスをオープンしてから30周年を迎えたこと、心からお祝いを申し上げたい。これもひとえに歴代の理事長・学長や先生方が献身的に薬学教育に情熱を燃やし、学生の指導および研究に邁進してきた努力のためのものであると敬意を表したい。

昭和薬科大学と町田市とは市内にキャンパスをオープンして間もない頃から、地域課題解決を図るための様々な協力関係を築いてきた。昨年12月には「健康的に暮らせる持続可能なまちの実現」に向けてまちづくりの推進協定を締結した。共同事業として、地域の子育て家庭が薬に関する悩みを相談できる「お薬相談カフェ」や、市庁舎への出前講座の開催など、市民の悩み事・困り事・疑問の解決のためにも取り組んでいる。町田市としても取りたいことと感じている。

先月、薬草園を見学した。通常の植物の説明書きに加えて、効能まで記載してあったことが印象に残った。立派な薬草園があり、市内に唯一の医療系大学として根を下ろし、多数の優秀な人材を世に送り出してきたことに町田市民の一人として誇りに感じている。この2020年は新型コロナウイルス感染症が人類に大きな影響を及ぼした年になってしまった。未知の感染症の猛威から市民の身を守り、安全で安心して暮らしていける日常生活を取り戻すためにも、薬学への期待は日に日に大きくなっており、昭和薬科大学の理念「薬を通して人類に貢献」がまさに求められていると考えている。大学創立90周年を契機にさらなる飛躍を遂げることをお祈りしている。

※ 写真は特別講演会後の記念撮影。  
後列左から渡部一宏記念事業実行委員長、元木和幸理事長、山本恵子学長。前列左から石阪丈一町田市長、特別講演を行った大村智北里大学特別栄誉教授、西島正弘前学長。

先月、薬草園を見学した。通常の植物の説明書きに加えて、効能まで記載してあったことが印象に残った。立派な薬草園があり、市内に唯一の医療系大学として根を下ろし、多数の優秀な人材を世に送り出してきたことに町田



記念撮影

薬学研究と教育を通じて医療人として強い使命感と実践能力を備えた薬剤師を育て、世に送り出していきたい。

▼学長式辞（山本恵子学長）

本学は「独立と融和」という建学の精神のもと、昭和5年に設立された。創立以来、本学は約2万人の薬剤師を輩出し日本の医療に貢献してきた。このことは本学の誇りとすると。多くの先人が日本の医療と薬学を牽引してきた伝統校として、その自負を持ちながら、創立90周年を節目に気持ちを新たに、今後も伝統と実績を継承しつづつ、社会で活躍する薬剤師の輩出に向けて大学教育を行っていく。

さて、改正学校教育法および改正薬剤師法により、本学は平成18年から6年制の薬学部となり、高度な医療と地域医療を担う薬剤師を輩出するために6年間の一貫教育を行っている。5年次の病院と薬局における5ヵ月間における長期実務実習がこの教育の特色と言える。臨床現場でしか身に付けることのできない実践的な臨床対応能力を育む、極めて教育効果の高い実習を実施できている。これはひとえに関係者の皆様のご尽力によるものであり、心より感謝を申し上げます。

研究面ではこの10年来、最先端機器を取り揃えたハイテクリサーチセンターを中心に、学内共同研究を推進し、大型の競争的資金を複数獲得し先端研



理事長式辞

究を実施することともに、大学院生や若手教員の研究面における育成に取り組んできた。現在では昭和薬科大学ならではの特色ある研究を立ち上げ、学内を挙げて取り組んでいる。

これからの予測不可能な時代を生き抜いていく人材を育成するために、多様な柔軟な教育プログラムが必要になる。しかし、本学のリソースだけでは限界がある。近年、他大学、国立の研究所、薬剤師会や町田市といった行政等外部機関と本学との間で連携協定を結び、それぞれの専門分野の特色を活かした人材交流や人材育成を行っている。今後はさらに連携を深め、多様で豊かな学生の学びにつなげていく。

今年本学が町田に移転して30周年の節目の年でもある。この節目の年に

もとゆきトーク145

令和3年度予算概算要求



第53回日本薬剤師会学術大会は10月10日、11日の両日、札幌市で

開かれました。今大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、ウェブ配信を併用する初の試みとなり、多少のトラブルもあったようですが、社会のデジタル化が進められている状況において、今後の参考になるものと思われま

さて、令和3年度予算概算要求は、9月末に各省庁から提出されました。今回は新型コロナウイルス感染症の影響により、概算要求の段階では予算額を決めず、基本的に要求額は対前年度同額とし、新型コロナウイルス感染症への対応等の緊急な経費については、別途要望することができるとする財務省方針に従い、各省とも予算額を定めない事項のみの要求が多く盛り込まれています。

一般会計の要求・要望総額は105兆円を超えています。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、来年度予算がさらに膨らむ可能性もあり、政府内の調整に関心が

寄せられることとなります。

厚生労働省の一般会計要求総額は32兆989.5億円、このうち医療・介護・年金等の社会保障に係わる経費は、前年度当初予算と同額の30兆856.2億円となっています。

この他、新型コロナウイルスのワクチン・治療薬の研究開発支援、PCR検査・抗原検査等の戦略的・計画的な実施体制の構築、検査体制の充実等、ウィズコロナ・ポストコロナ時代を踏まえた、保健・医療・介護・雇用対策費の多くが事項のみの要求となっています。

薬剤師・薬局の関連では、オンライン資格確認等システムを基盤とした電子処方箋の令和4年度運用開始に向けて、システム構築とともに全国の医療機関・薬局等への周知を図る事業費として、38億円を新規に要求しています。

また、薬剤業務でのICTの活用や高度化する薬物療法への対応等、薬剤師の資質向上に向けた研修に係わる検討事業等も新規に要求しています。

薬剤師・薬局に係わる事業費をはじめ、感染症対策、社会保障関連の予算確保に努めて参りたいと思います。